

令和7年度第1回那珂市地域公共交通会議議事録

1 日 時 令和7年8月4日（月）午後1時30分から午後2時40分

2 場 所 那珂市役所 2階 全員協議会室

3 次 第

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）委員紹介

（4）議事

【報告事項】

① 那珂市地域公共交通会議設置要綱の改正について

② デマンド交通「ひまわりタクシー」の利用実績について

③ 那珂市運転免許自主返納等支援事業の実績について

④ デマンド交通「ひまわりタクシー」に関するアンケート調査の実施結果について

（5）その他

（6）閉会

4 委員等の出席状況

委員総数 25名

出席委員 22名

欠席委員 3名

事務局 7名

5 議事内容

〈報告事項1〉 那珂市地域公共交通会議設置要綱の改正について

那珂市地域公共交通会議設置要綱について、自家用有償旅客運送に係る「首長判断プロセス」の導入、運賃協議分科会の設置、地域公共交通会議の公開の3点を改正したことを説明した。また、運賃協議分科会の設置に伴う運営規程及び地域公共交通会議の公開に伴う取扱について説明を行った。

【質疑なし】

〈報告事項2〉 デマンド交通「ひまわりタクシー」の利用実績について

令和6年度のひまわりタクシーの登録者数及び利用者数について説明した。

また、「広報なか」にひまわりタクシーの記事の掲載や市内の医療機

関及び乗降場所になっているひたちなか市の医療機関にパンフレット等の設置を依頼し、ひまわりタクシーのPR活動を行ったことを報告した。

【質疑等】

○委員：2点質問がある。1点目は、令和6年度に水戸市に行く利用者が増加しているが、事務局として今後、考えはあるか。2点目は、実車率が伸びていった場合、市の財政が圧迫されることも考えられるが、その点についてどう考えているか。

●事務局：1点目について市のデマンドタクシーは水郡線と路線バスを補完する形で導入している。さらに、水郡線の本数を考えた中で、水戸行きについて現在運営している。今後について現時点では、市内の乗合率等を考慮した上で、水戸行きの影響等は運営上特にないので、引き続き運行を行っていく。ただし、今後の状況において、市内の運行で予約が出来ない等の課題が出てきた場合は、運用方法の見直しを考える必要が出てくると思われる。

2点目の運行経費については、近年増車等はしていないので、基本的に3,500万円程度を推移している。増車等を行うことがなければ、当面この金額で運営できると考えている。

〈報告事項3〉那珂市運転免許自主返納等支援事業の実績について

令和6年度の「ひまわりタクシー特別利用券」交付者数及び「ひまわりタクシー特別利用券」の利用者数について報告した。

【質疑等】

○委員：他自治体ではアプリ上での配車がトレンド化しているが、効率効果的な運行をするにあたって、そのようなシステムを導入することを今後検討はするのか。

●事務局：アプリの導入について那珂市の事業規模の場合、効率的な運営にならない可能性がある。当面、那珂市においてアプリの導入は考えていないが、今後大きく事業状況が変わった場合においては、次のステップとして試案に入れていきたい。

○委員：最近、国土交通省で交通空白解消本部が立ち上がって補助金のメニューがいろいろある。今後、アプリ導入等の検討をするにあたっては、そのような補助金を活用することも念頭に置いてもらえればと思う。

○委員：R4からR6で合計の利用者数が減少している理由が分かっているならば教えてほしい。

●事務局：免許返納数自体は増加している。特別利用券については、使用期限を設けていないので実際に交付を受けてすぐに使用す

るのではなく、早い段階で交付だけうけて、然るべきタイミングで利用するかたも一定数いる。大きな原因があって減少しているというところまでは認識していない。

〈報告事項4〉 デマンド交通「ひまわりタクシー」に関するアンケート調査の実施結果について

今後も持続可能な公共交通システムとしてひまわりタクシーを維持していくために、利用者の意向や利用実態に関するアンケートを実施し、現在の運行体制における課題を把握・整理することを目的として今回のアンケート調査を実施するに至った。

対象者は、令和5年度の利用頻度によって「日常的に利用しているかた（令和5年度の利用回数が延べ10回以上のかた）」、「令和5年度の利用回数が10回未満のかた」、「令和5年度利用がなかったかた」の3パターンに分類して調査を実施した。

今回のアンケートの結果から、ひまわりタクシーの利用がなかったかたは、自家用車での移動を主とする層であり、今後を見据えてひまわりタクシーの利用者登録をされたかたが多数を占めているということが推測される。

年10回未満ひまわりタクシーを利用されたかたは、自家用車での移動と公共交通での移動の過渡期の層だと推測される。目的地までの移動に不便を感じている人が7割近くいるが、過渡期の層ということ を考慮すると、自家用車での移動と同じくらいの便利さを望んでいるかたもいるのではないかとということが考えられる。

しかしながら、ひまわりタクシーはバスや鉄道などの基幹系交通を補完する公共交通であるため、「那珂市地域公共交通計画」の53ページの計画の基本理念と目標の基本方針3には、『公共交通には自動車交通のような利便性は期待できず、「公共交通に合わせる」という“少しの不便さ”を受け入れる必要があります。』と記載がある。「少しの不便さ」を前提に、利用者のニーズを踏まえた適正なサービスを提供する必要があると考えている。

資料4-1、4-2で今後のひまわりタクシーに期待することとして、予約が乗車直前にできることや待ち時間の短縮を挙げているかたが多くみられた。

以上を踏まえると、料金は値上げせずに現状を維持したうえで、要望が多かった「待ち時間の短縮」や「直前での予約」について検討することで、現在利用されているかたや、今後利用されるかたに満足いただけ、更なる利用促進につながっていくと考えている。

次回の公共交通会議は、アンケートから見えた課題やひまわりタクシーの実情を踏まえて、タクシー事業者と協議したうえで方針案について示すことを説明した。

【質疑等】

○委員：アンケート対象者を3つに分類して行ったことはそれぞれの課題や実情をつかめて良かったと思う。また、去年の課題として挙げたPR不足もすぐに取り組んだ姿勢も良かったと思う。

水郡線等の公共交通はあるが、それを補完するデマンドタクシーも必要であり、大切な移動手段の一つである。

○委員：近所のかたで少し前まではデマンドタクシーをよく利用していたが、90歳を超えて足腰や耳が悪くなってきて他のかたと同様に乗ることを遠慮して利用しなくなったという話をいくつか聞いている。全く利用していないかたの中にはそういうかたもいるということを念頭に置いて欲しい。

○委員：高齢者をターゲットとした交通網については理解したが、若い人向けの交通網についてはどのように考えているか。偏った交通網を形成すると後々人口流入に影響してくる可能性もあるため、そういった観点でも議論していく必要があるのではないか。

●事務局：本市の現状として市街化区域の面積が1割で市街化調整区域の面積が9割であり、市街化調整区域に人口の6割が住んでおり集落が拡散している状況である。

若い人かたは那珂市の集落性から自動車での移動が前提となっている。それを打開するためのものを内部でも検討しているが、現在はまだ答えが出ていないところである。今後も他の自治体や国の方策を注視しながら、研究していきたい。

○委員：コミュニティバスは予約もいらず、若い人も気楽に乗れると思うので、少しでもまた運行してくれると良いなと思う。

また、アプリを利用した乗車予約等は便利だと他の市町村のかたから聞いたので、これから検討して楽に乗れるようになることを利用者としてもうれしい。

6 その他

- ・ 第2回那珂市地域公共交通会議の開催について事務局より次回開催日程について説明した。